

「だし鐵」の江戸型山車展示

製作は明治初期、作者は東京神田の名工「だし鐵」こと百雲正・山本鉄之です。

1906 年(明治 39 年)当時、東京の祭りが山車文化から神輿文化に移る中、荒川区の石濱神社祭礼で巡行していた台東区橋場二丁目(現、橋場一丁目)所有の山車と人形を同町仲町区が譲り受けました。

明治 39 年、同町で日露戦争凱旋記念の祭礼が執り行われ、それが山車祭りの始まりとなりました。

この祭礼から昭和 35 年までの 54 年間、下仁田秋祭り(諏訪神社秋季例大祭)で活躍して来ました。

昭和 36 年、山車の老朽化に伴い仲町区は二代目の山車を製作、「だし鐵」の山車のみを同町本宿区に譲り、平成の時代まで本宿地区で賑やかに祭礼を行っていました。

2024 年(令和 6 年)石濱神社宮司より御鎮座壱千参百年祭への参加協力依頼があり、十数年眠っていた山車を修復する事になりました。当時の仕組み部材を出来るだけ残し曳きまわせるまでに修復し山車と人形共に 118 年ぶりに東京石濱の地を巡行し無事に里帰りをして来ました。

下仁田地区でのお披露目は 64 年ぶりです。まだ修復途中ではありますが、是非ご覧になってください。